



JRA認定競走／JA全農いわて協賛

第27回 ジュニアグランプリ(M1)

盛岡競馬場／2歳・地方競馬全国交流・芝1600m

8月19日(火)第10競走 17:15発走

OROパーク開場から3年後の1999年、待望の2歳（旧年齢3歳）芝の交流重賞として新設。当初は東北3県（※岩手・上山・新潟）交流として『東北ジュニアグランプリ』のレース名でした。2003年に地方競馬全国交流へと門戸が開かれレース名も今と同じく『ジュニアグランプリ』に。以来、貴重な地方競馬の2歳馬による芝重賞として存在感を示してきただけでなく、その後の芝戦線、3歳の芝重賞へも繋がる戦いとして重要な位置を占めています。

■ナッツナッツ(牡2 盛岡・櫻田浩樹厩舎)



ここまで2戦1勝、デビュー戦は勝った馬がちょっと強すぎたと思えるだけに勝った前走がこの馬本来の力と見ていいだろう。父はルヴァンスレーヴだけに距離に関しては対応できるとして課題はやはり芝対応、芝で勝っている産駒もないわけではないがやはりダートがベターだとは言えるだろう。ここでどんな戦いができるかチャレンジ。

「距離も芝も初めてなのですが、ここで適性を示してくれば、ここで戦って経験を積んでくれればと思いながら挑戦します。（櫻田浩樹調教師）」

■クラウニングカップ(牡2 門別・田中淳司厩舎)



6月12日のデビュー戦は単勝1.4倍に支持されたものの2着。しかし「この時は真面目に走っていなかった。2戦目からはプリンカーを付けました（田中淳司調教師）」、それが功を奏して返す刀の2戦目で初勝利。現時点では3戦1勝だが勝ったレースにしても敗れたレースにしてもハイレベルのメンバーだったのは間違いなく、本馬の素質ももちろん高いはずだ。管理する田中淳司調教師はこのレース3連覇中。4連覇へ向けて準備万端挑む。

「血統的には芝が向くのではないかと考えて挑戦。左回りもびっしりと調教しているので大丈夫だと思いますね。これからレースを覚えて良くなっていく馬。あとはこの馬の癖を知っている鞍上に任せます。（田中淳司調教師）」

■レヨンドルミエール(牡2 水沢・伊藤和忍厩舎)



デビュー戦は850mが忙しかったか離れた6着、その後も徐々に時計を詰め勝ち馬との差を詰めながら進んできていたけれども…という前走、ここまでとは一変、直線の競り合いもしっかり制して初勝利を手にした。これでいよいよ歯車が噛み合ってきたと考えたいところだ。もちろんここは大幅な相手強化になるだけに前走の再現は簡単な事ではないだろうが、まだまだこれからの馬、この経験は必ずこの先の糧になるだろう。

「前走時も芝戦に申し込んでいたのですが賞金不足で出走できず。血統は芝もこなせて良いですから一度芝を試してみたかったですね、相手は強力ですがここでチャレンジしてみます。（伊藤和忍調教師）」

■インフェルレーヴ(牡2 水沢・小林俊彦厩舎)



6月のデビュー戦では2番人気に押されつつも4着。実戦で力を出し切れずに終わったが、2戦目3着、3戦目2着と着実に差を詰めてきて素質の高さは示している。芝に転じて5着・9着と着順は後退したが、若鮎賞では11番人気で5着に食い込んでおりここでも地力は見せたと言っていいたいだろう。相手強化になる一戦だがここでも上位に食い込む走りを見せて、この先のステップアップに繋げていきたいところだ。

「前走は度外視でいい。二走前くらい走ってくれば。枠順もここならいいと思います。相手は強力ですが戦って力を付けていってくれば。（小林俊彦調教師）」

■ジュエルレジーナ(牝2 盛岡・飯田弘道厩舎)



本馬の母ジュエルクイーンは門別デビューで各地を転戦しつつ重賞10勝を挙げた女傑で、岩手のファンにも2016年から18年までビューチフルドリーマーカップを3連覇したその馬だといえれば思い出される方も多いだろう。ただ、それだけにこれまでの産駒の勝ち上がりはいずれもダート。芝はどうか？とも感じる血統なのだが、本馬は2戦目の芝で4着と進境を示した。上のきょうだい達がデビューからいくらか時間を経てから勝ち始めたという点もまだ未勝利の本馬にとってはむしろ心強い。

「若鮎賞では外枠だった分で序盤から脚を使って苦しくなりましたが、前走のように脚を溜めていければ芝でも手応えがありますね。終いに賭けるような競馬ができれば。（飯田弘道調教師）」

■ベネフィシオス(牡2 盛岡・飯田弘道厩舎)



ここまで4戦して着順は4着が最高なのだが勝ち馬とのタイム差は若鮎賞での7着・1.8秒差が一番小さい。そこに期待をかけての出走。本馬の母レアリサールはJRA未勝利から岩手に転じて3勝、産駒もダートで複数の勝ち星を挙げている馬が多い。その点で主戦場はやはりダートの血統なのだろうが、本馬の場合は父ビーチパトロールがどこか後押ししているのかも。その若鮎賞での上がり3ハロン38秒2は全体で上位に入るし7着とはいえ3着争いでは一団だった。それを手がかりにしてここに挑む。

「まだ子供っぽさが目に付いていて、真面目なんですけど気持ちに身体が付いてこないようなところがあります。軽いコース、芝が良いのならこの先の選択肢も広がるし、適性を試してみたいですね（飯田弘道調教師）」

■イタズラベガ(牝2 水沢・菅原勲厩舎)



デビューからは3戦1勝、敗れた時も僅差の2着。すでに重賞に挑戦し勝ち星も挙げているようなライバル達に比べるとまだ派手さがない戦績だが、ここまでのレースの質・走りの質は十分に高い。母やきょうだいたち、近親の成績はダートが中心で父もやはりダートが主戦場になりそうだが、2歳の芝戦は根本的な能力、スピードがあれば勝ち負けできる事が多い。それがここになるのかどうか？あくまでも挑戦だが、どんな走りを見せるか注目していい一頭だ。

「芝でもダートでも力を出せる馬でしょう。前走の芝の走りが良かったので改めて芝に挑戦してみます。（菅原勲調教師）」

■セイクリスティーナ(牝2 水沢・佐々木由則厩舎)



5月の新馬戦では2着に敗れたが2戦目を圧勝で初勝利。そして3戦目の重賞・若鯉賞、ここでも強い走りを見せて初戴冠を果たした。注目すべきはその勝ちタイム1分39秒1。確かに今年のシーズン序盤の芝は速い時計が出ておりそのままの比較は避けるべきかもしれないが、それにしても若鯉賞の歴代の中では最速、過去のジュニアGPで比較しても最速クラスの時計は目を惹くし高く評価もできるものだ。この好時計を武器に、地元の大將格として門別勢を迎え撃つ。

「一週前には併せ馬でしっかり追い切りができておりここまで順調。前走時はまだゲートの不安があったので外枠が良いと思いましたが今はもうそれはないですから、どんな枠でも大丈夫でしょう。（佐々木由則調教師）」

■ラブコラージェン(牡2 水沢・菅原勲厩舎)



5月4日に行われた今年の岩手最初の2歳新馬戦、2着馬に2.4秒差を付ける大差勝ちでデビュー勝ちを収めて一躍注目を集める存在に。その後は残念ながら苦戦が続いているが新馬戦で見せた強さはまだまだ色あせてはいないはずだ。初めて芝に挑んだ若鯉賞では大きく敗れたものの2度目の芝の前走では勝ち馬から1秒差の6着、持ち味のスピードを活かしつつ粘る姿を見せて復調だけでなく進境も感じさせている。思えば新馬戦も不良馬場。軽い馬場でこそその可能性は念頭に置いておきたい。

「マイルが長いというよりは非力なので最後苦しくなってしまう。それで止まってしまうのがどう影響するか、でしょうか。（菅原勲調教師）」

■ベイビーザロック(牡2 門別・小野望厩舎)



ここまで5戦1勝、認定勝ちを果たしていない本馬だが、管理する小野調教師は「まだ真面目に走っていない」と言われるが、同時に「レース内容としては悪くはない」とも評価する。「調教でもやる気を見せない馬でね、追い切りの時計も遅いでしょう？これで一杯なんです。そういう馬なんです」。ただそれは気にしないでいい事だとも。距離はこなしてくれそうな体型だし走りも芝が合いそう。いつもと違う舞台でこれまでと違う走りを見せてくれないか？と送り込む陣営は期待している。

「距離はこなしてくれると思うのですが気性面があまり前向きではない。できれば前に目標を置いて追いかける、追いかけて続ける形になればいいのではと思っています。あとは芝適性さえあれば…ですね。（小野望調教師）」

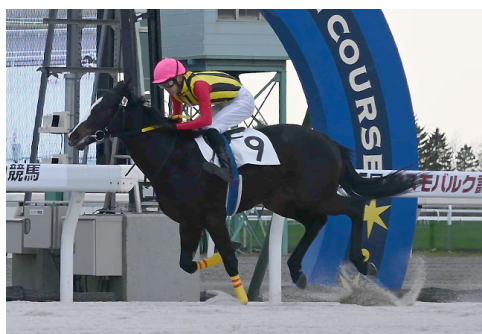
■ユウユウロゼッタ(牝2 盛岡・飯田弘道厩舎)



能力検査の内容から1番人気に支持された新馬戦だったが惜しくも2着。現時点ではそれが最高着順になっているが、ここまで7戦、一進一退しつつも進境は感じさせているのではないかと。ゲートに難しいところがあったのが徐々に解消されつつあるのがその最大の部分といえ、そこが安定しさえすれば初勝利もそれほど遠いことではないはずだ。

「芝でもダートでもややワンペースな感じですが、距離があった方が良さそうな印象なので。順調に來ていますし経験を積んで成長してくれば。(飯田弘道調教師)」

■ブルーメンガルテン(牡2 門別・角川秀樹厩舎)



提供:ホッカイドウ競馬

“日本で一番早い2歳新馬戦”と言われる4月のスーパーフレッシュ戦でデビューした本馬はここまで4戦1勝2着3回、2着にしてもなかなかの強敵相手に確保したもので高い評価ができるという点は他の遠征馬と同様だ。初距離・初芝が課題になるのは確かだが血統的にはいずれも対応できる範囲だろう。門別での2歳戦線では毎年最有力厩舎となっている角川厩舎だが、門別の2歳馬が猛威をふるってきたジュニアGPは意外にも未勝利。その最初のタイトル獲得が今回であってなんら不思議はない。

「社台さんのスタッフも自分もこの走りなら芝も良いのではないかと早くから思っていた馬。どんな走りをするかという事でここに挑んでみます。距離も問題ないのではないのでしょうか。(角川秀樹調教師)」

■トゥーナスタディ(牡2 盛岡・齋藤雄一厩舎)



デビュー戦こそラブコラージュに敗れたが2戦目で勝ち星を挙げてからは上昇気流、直近の2戦でも若鮎賞で2着、芝の認定競走で1着と芝が舞台でも勢い通用を示している。今年の厩舎期待の2歳馬の一頭としてこの馬の名を聞いてきていたが、これだけの結果を残していればその期待にも応えてきている、それだけの素質の裏付けもあったといえるだろう。この馬の武器は芝・ダート兼用の安定感と距離への対応力。なにより成長力か。ここで大きく飛躍して見せてくれる可能性も十分以上。

「前走時は落鉄しながらも勝ってくれた。その後はしっかり調整できて状態は良いですね。やはり外枠がどうか？ですが、そこは位置取りひとつで良い競馬になるのでは。(齋藤雄一調教師)」